

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 2 年度病虫害発生予察技術情報第 3 号について (送付)

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 3 号 (ツマジロクサヨトウ) を発表しましたので送付します。

技術情報第 3 号

1 対象作物名 : 飼料用トウモロコシ

2 病虫害名 : ツマジロクサヨトウ

3 発生状況

8 月上旬播種の飼料用トウモロコシのほ場において、8 月 5 半旬に調査を実施した結果、久留米市及び筑紫野市のほ場にて、ツマジロクサヨトウの寄生及び被害が確認された。また、各調査ほ場の被害株率は久留米市で 80%、筑紫野市で 95%であった。

4 防除上注意すべき事項

ツマジロクサヨトウは、若くて柔らかい部位を好んで食害するため、生育初期のほ場や今後播種を行うほ場については、特に本種の発生状況に注意し、発生を確認した場合は対策を講じる。

(1) 早期発見

生育初期に幼虫 (写真 1、2) に食害されると被害が大きくなるため、ほ場をよく見回り幼虫の早期発見に努める。発生は幼虫による葉の食害痕 (写真 3) や虫ふん (写真 4) の有無を確認することにより行う。

(2) 農薬散布

農薬の散布にあたっては新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかり散布する。

なお、周辺作物への農薬の飛散 (ドリフト) には十分注意する。

(3) 農薬散布が困難な場合

① 早期刈取り

収穫が可能な場合は、直ちに収穫・調整を行う。

刈取り後は、土の上に落ちた幼虫やさなぎを駆除するため、速やかに耕耘する。

② すき込み

直ちに収穫が困難な場合は、被害の拡大や虫の分散等を防止するため、速やかにすき込みを実施する。

すき込みの実施に当たっては、幼虫やさなぎを破碎、又は土中深くに埋没するよう、土の表面に作物が見えなくなるまで深くすき込み (深さの目安 12cm 以上) を 2 回以上行う。



写真1 ツマジロクサヨトウ幼虫



写真2 被害株と幼虫



写真3 幼虫食害葉



写真4 食害部と虫ふん

*** 使用農薬については農林水産省 HP を参照。**

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html

○病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病虫害防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

